

4. 記録部

画面に表示されている各種波形および数値データを記録します。

- 記録についての詳細は、取扱説明書「5. 記録のしかた」の項をご参照ください。

【使用目的、効能又は効果】

<使用目的>

本システムは有線により、心電図、呼吸、SpO₂（動脈血酸素飽和度）等を連続的に監視して患者の病状傾向を把握することを目的としたもので、ICU、CCU、手術室、院内搬送中などで使用されます。

【品目仕様等】

1. 表示部

使用表示素子：5.7インチ TFT カラーLCD

機能切替え：タッチスクリーン方式

波形表示形式：ステーションリトレース

掃引速度：通常 50mm/秒、25mm/秒

圧縮 12.5mm/秒

波形掃引時間：4.5秒（25mm/秒）

計測パラメータ：心電図、呼吸、SpO₂（動脈血酸素飽和度）、非観血血圧

2. 心電図

誘導方式：有線3電極（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

周波数特性：30Hz/70Hz切替

入力インピーダンス：10MΩ以上（10Hz）

最大入力電圧：±5mV

分極電圧：±400mV以上

同相成分除去比：80dB以上

心拍数計測範囲：0、12～300bpm±3%

感度切替：1/4、1/2、1、2、4

除細動保護：あり

3. 呼吸

方式：インピーダンス方式

計測範囲：4～150Bpm

4. SpO₂（動脈血酸素飽和度）

計測方式：2波長脈波方式

計測範囲：0%～100%

分解能：1%

計測精度：成人 70～100%時 ±2%

50～69%時 ±3%

0～49%時 規定せず

新生児 70～95%時 ±3%

脈拍数計測範囲：20～250bpm±3bpm

5. NIBP（非観血血圧）

計測方式：オシロメトリック法

計測範囲：10～280 mmHg

分解能：1mmHg

圧力精度：±4 mmHg

血圧計測範囲：成人・小児 10～280mmHg

SYS：60～250mmHg

DIA：40～220mmHg

新生児 10～120mmHg

SYS：40～130mmHg

DIA：20～90mmHg

【操作方法又は使用方法等】

<操作準備>

1. 装置の等電位化

必要に応じて本体の等電位化端子に接地コードを接続し、他方を医用接地端子または、他の機器に接続して等電位化します。

2. 電源コードの接続

本体の電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、電源コードのコネクタを右側面の電源コネクタに差し込み、反対側のプラグをAC100Vのコンセントに接続します。

3. 各中継コード及びセンサーの取付け

各コネクタに指定された中継コード及びセンサを取付けます。

<操作方法>

1. 本体の電源スイッチを「入」にすると電源が供給されモニタ画面が表示されます。
2. 主要な機能の切り替えはフロントパネルの各スイッチで行い、操作は全てタッチスクリーン上のキーで行います。
3. 記録はフロントパネルの記録/停止スイッチから操作することができます。
4. 本体は、バッテリーが内蔵されている場合、バッテリー駆動での使用ができます。

<使用後>

1. 使用後はフロントの切スイッチを押してモニタをオフにします。なお、バッテリーが内蔵されている場合は、引き続き充電されます。充電が必要であれば本体側面の電源スイッチを「切」にして電源を切ります。

【使用上の注意】

<使用注意（次の患者には慎重に適用すること）>

1. 心電図のモニタリング

• ペースメーカ使用患者

〔ペースメーカ使用患者をモニタリングする場合は、ペースメーカ設定を「使用」に設定してください。ペースメーカ使用患者でもQRS検出が正しく行えるように、ペースパルスを検出し、QRS波と区別しています。「未使用」のままモニタリングすると、ペースパルスをQRS波と誤って認識し、ペーシング不全を見落とすことがあります。〕

• 生体の電氣的インピーダンス測定センサ（分時換気量（MV）センサなど）を使用したレート応答型心臓ペースメーカを植え込んだ患者

〔本装置を接続した場合、心臓ペースメーカのセンサが過度に反応し最大レートに達してしまうなど、不適切なペーシングレートになる可能性があります。また、本装置が誤った情報を提供してしまう場合も考えられます。〕

2. SpO₂のモニタリング

• 高熱の患者、末梢循環不全を起こしている患者

〔センサの位置を頻繁に変えてください。SpO₂センサの装着部位は通常2～3℃温度が上昇するため、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。〕

• 以下の場合、正しく測定できない可能性があります。

- 異常ヘモグロビンの量が多すぎる患者（HbCO, MetHb）
- 血液中に色素を注入した患者
- CPR（心拍蘇生術）処置をしている患者
- 体動がある患者
- 静脈拍動がある部位で測定している
- 脈波が小さい患者

• センサの使用により、皮膚の発赤やかぶれなどの過敏症状が現れた場合は、装着位置を変えるか、使用を中止してください。

3. 非観血血圧のモニタリング

• 天然ゴムアレルギー患者

〔本装置の血圧測定に使用しているNIBPカフは天然ゴムを使用しています。天然ゴムは、かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー症状をまれに起こすことがあります。〕

• 出血傾向あるいは過凝固状態の患者

〔カフで腕を締め付けた後に点状の出血や血栓による循環障害を生じることがあります。〕

<重要な基本的注意>

詳しくはダイナスコープ2100システム取扱説明書の序文をご覧ください。

1. 装置について

- 水のかかる場所、ネブライザや加湿器からの加湿空気が直接装置にかかる場所では使用しないでください。
- 電源コードは必ず、付属品の3ピンプラグ付き電源コードを使用してください。他の電源コードを使用した場合、患者および操作者が電撃を受けることがあります。付属品の3ピンプラグ付き電源コードを使用できないところでは、本装置をバッテリー動作で使用してください。

- “**△**” マーク表示のあるコネクタに各種の周辺機器を接続する場合は、必ず取扱説明書をご参照の上、当社指定の装置を定められた方法により接続してください。指定外の機器を接続すると、漏れ電流により患者及び操作者が電撃を受けることがあります。
- 患者の周囲では、携帯電話や小型無線機など（施設の管理者が使用を許可した PHS 端末を除く）の電源を切ってください。携帯電話や小型無線機などが発する電波を脈波と誤認し、誤った測定値を表示することがあります。

2. アラームについて

- 全アラーム中断中は、すべてのアラームが発生しませんので、頻繁に目視で患者の状態を確認してください。
- 各パラメータの上・下限閾値を OFF に設定した場合や不整脈アラームを OFF に設定した場合は、全アラームが ON に設定されていてもアラームは動作しません。OFF に設定するときは十分注意してください
- スリープ機能を使用するときは、セントラルモニタなど他のモニタでも同時にモニタリングしてください。スリープ状態では、アラーム音、心拍同期音は一切鳴りません。

3. SpO₂ のモニタリング

- センサをテープで固定する際は、テープを強く巻きすぎないようにしてください。同時に、センサの装着部位より末梢側にうっ血が生じていないかなど、常に血流をチェックしてください。
- 短時間の装着でも血流を阻害し、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。また、血流の阻害で正しく測定できないことがあります。
- センサは一定時間（約 4 時間）ごとに装着部位を変えてください。SpO₂ センサの装着部位は通常 2～3℃ 温度が上昇するため、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります
- センサを患者さんに装着してから数秒間は計測値が 0（ゼロ）になる場合があります。
- センサを患者さんから外してから数秒間は計測値が更新されません。

4. 非観血血圧のモニタリング

- 静脈確保されている上腕や大腿にカフを装着しないでください。血液が逆流し、薬液の注入が停止することがあります。
- 2.5 分以下の間隔で長時間測定する場合は、必ず、患者の状態を確認しながら使用してください。また、定時測定を長時間行う場合、定期的に血行状態をチェックしてください。測定部位でうっ血をおこすことがあります。
- カフのサイズは、上腕周径に適したものをご使用ください。サイズが合わない場合、測定値に誤差が生じることがあります。

<相互作用～併用禁忌・禁止（併用しないこと）>

医療機器の名称	臨床症状, 措置方法	機序, 危険因子
一人用又は多人数用 高圧酸素治療装置 可燃性麻酔ガス 霧囲気内での使用 高濃度酸素 霧囲気内での使用	使用禁止	爆発または火災を起すことがあります。
磁気共鳴画像診断 装置 (MRI 装置)	MRI 検査を行うときは、本装置に接続されている電極およびセンサ類を患者から取り外してください。	誘導起電力により局所的な発熱で患者が熱傷を負うことがあります。詳細は、MRI 装置の取扱説明書の指示に従ってください。

<相互作用～併用注意（併用に注意すること）>

1. 複数の ME 機器との併用

- 複数の ME 機器を併用するときは、機器間に電位差が生じないように等電位化接地をしてください。筐体間にわずかでも電位差があると、患者および操作者が電撃を受けることがあります。

2. 除細動器

- 除細動を行うときは、患者の胸部に装着した電極または貼付してある薬剤からなるべく離して通電してください。接触の恐れがある場合は、電極または薬剤を取り除いてください。
[除細動器のパドルがこれらの物に直接接触すると、放電エネルギーによる電撃を受けることがあります。]
- 除細動を行うときは、患者に装着した電極およびトランスデューサのコードや中継コードが装置に確実に接続されていることを確認してください。
[はずれているコードの金属部に触ると放電エネルギーによる電撃を受けることがあります。]

3. 電気メス

- 電気メスを併用する場合は、電気メスの対極板の全面積を適切に装着してください。
[装着が不適切な場合、電気メスの電流が本装置の電極に流れ、電極装着部に熱傷を生じます。詳細は電気メスの取扱説明書の指示に従ってください。]
- 電気メスを併用する場合は、電気メスを適切に配置し、本装置の電源コードを正しく接続してください。
[電気メスからのノイズを QRS あるいは不整脈と誤認識することがあります。]

<小児等への適用>

- 新生児・低出生体重児については、SpO₂ センサをテープで固定する際は、テープを強く巻きすぎないようにしてください。同時に、SpO₂ センサの装着部位より末梢側にうっ血が生じていないかなど、常に血流をチェックしてください。
[短時間の装着でも血流を阻害し、圧迫壊死及び熱傷を生じることがあります。また、血流の阻害で正しく測定できないことがあります。]
- 新生児・低出生体重児については、症状および程度に応じてセンサの装着部位をより頻繁に変えてください。
[新生児・低出生体重児は皮膚が未成熟であり、SpO₂ センサの装着部位は通常 2～3℃ 温度が上昇するため、圧迫壊死及び熱傷を生じることがあります。]

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

<貯蔵・保管方法>

- 化学薬品の保管場所、ガスの発生する場所に保管しないでください。
- 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、および硫黄分などを含んだ空気などにより、悪影響の生ずるおそれのない場所、水のかからない場所、傾斜、振動、または衝撃（運搬時を含む）のない場所に保管してください。
- 次の条件を満たしている環境内で保管してください。
温度：10～40℃
湿度：30～85%（ただし結露しないこと）

<使用期間等>

耐用期間：6 年 [自己認証（当社データ）による]

<動作保証条件>

次の条件を満たしている環境下で使用してください。
温度：10～40℃
湿度：30～85%（結露しないこと）

【保守・点検に係る事項】

メンテナンスについて詳しくはダイナスコープ 2100 システム取扱説明書「6.7 保守点検」をご参照ください。

<使用者による保守点検事項>

日常点検は、日常点検記録表に従って毎日行ってください。

<業者による保守点検事項>

定期点検は、故障や事故を未然に防ぎ、安全性・有効性を維持するために不可欠な作業です。年に 1 度、すべてのケーブルや装置・付属品の損傷、接地抵抗、外装漏れ電流、全アラーム機能をチェックしてください。また、すべての警告ラベルが確実に判読できることを確認してください。そして、これらの定期点検の記録を残してください。

【包装】

1セット/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者

フクダ電子株式会社

〒113-8483 東京都文京区本郷 3-39-4

電話番号： 03-3815-2121(代)

製造業者

フクダ電子株式会社